

イチゴを摘みに行こう

時 期 春～初夏
 時 間 1～2時間
 場 所 イチゴ農園

- イチゴの成長や実りを目で確かめる。
- イチゴを収穫し、味わう。

ねらい

- 親しむ** ・身近な作物の成長や実り、季節についての興味や関心を育てる。
 ・自分で収穫し、味わう喜びや、おいしい食物を与えてくれる自然に感謝する心を育てる。
- 知る** ・栃木県はイチゴの産地として有名であることを知らせる。

活動展開例

準備物			
・イチゴを収穫するための容器（大きめの蓋付きプラスチック容器）			
展 開	時間	活動内容	留意点
	事前	○おやつでイチゴを食べる。	・イチゴについてクラスの話題になるようにする。 ・掲示物などを工夫し、模擬収穫ができるようにする。
	10分	○イチゴが実っている農園へ行く。	・道中の幼児の安全に留意する。 ・栃木県はイチゴの産地として有名なのでイチゴを育てている農家がたくさんあることを伝えておく。
	10分	○イチゴの実りを観察する。 ・花 ・赤い実、青い実 ・葉や茎 ・太陽の役割 など	・全員が観察できる位置にいるかを確認する。 ・ハチに注意する。 ・農園でのマナーについて確認する。
	30分	○収穫し、食べる。	・「いただきます」と「ごちそうさま」をし、育ててくれた農家の方や、自然の恵みに感謝できるようにする。
	30分	○園に戻り、感動を伝え合うとともに、他の食物についても話し合う。	・図鑑などを幼児の目に触れやすい場所に準備しておく。
事後	○農園の人に教わりながら、イチゴを育てる。	・農園の人に、時々、来園してもらうなど、継続的に関わりがもてるようにする。	

幼児



活用ガイド

○収穫の仕方(練習編)



①チョコキを作る



②指で茎をはさむ



③おなかの方へ引っ張る

○活動の様子



赤いいちご・青いいちご
どっちがおいしいかな？



何個採れたかな？



見て！見てー！！
おいしそうでしょう！

○実施した効果(活動を振り返って)

- ・店に並んでいる他の野菜や果物もどのように育っているのかを考えるきっかけとなった。
- ・植物を進んで世話するようになった。(プランターの水やり等)
- ・食わず嫌いがなくなった。

○発展

- ・ジャムを作って食べてみる。
- ・自分たちで育ててみる。
 - ①タイヤの真ん中に土や肥料を入れる。
 - ②イチゴの苗を植える。(9～11月頃)
 - ③冬になったら越冬のため、黒いビニールを掛ける。
 - ④春になり実り始めるとカラスなどが狙ってくるので、かかしなどを工夫して作るとよい。
- ・ジャガイモ・サツマイモ掘りをする。 ・四季と実りに興味をもつ。
- ・野菜や草花の栽培や収穫。 ・太陽の働きに関心をもつ。
- ・他の実と比べてみる。

○イチゴ農園について

イチゴ狩り専門の農園もありますが、お近くのイチゴ栽培農家の方に相談してみてください。出荷の最盛期が終わりになる頃(地域によりますが5月下旬～6月初旬)に受け入れて下さるかもしれません。その場合、料金や収穫の仕方などの打合せが必要です。また、次年度のためのイチゴ栽培の準備がありますので、早い時期に交渉することをお勧めします。

本プログラムの作成において参考とした文献

- 平山 和子 「いちご(幼児絵本シリーズ)」 福音館書店(1989)
- 島津 和子 「いちごばたけができたよ(かがくのとも)」 福音館書店(2010)

幼児

